

## 3-② 実践報告書【学校報告用】

1年次／3年分

(1)事業名 ※事業名称がある場合	高士小学校防災訓練
(2)実践報告 ※11 ポイント、明朝体で枠内に収めてください。	
実践内容及び児童生徒の様子	<p><b>1 高士地区防災訓練</b>          開催時期：7月22日（土）8:00～12:00          参加者：保育園児、小学生、中学生、地域住民、分遣所職員駐在所職員、小学校職員</p> <p>① 避難所設営          避難者受入準備・受入、物資等受入・管理、炊き出し</p> <p>② 救急法（AED操作）訓練（分遣所職員による指導）</p> <p>③ 初期消火訓練（分遣所職員による指導）</p> <p>④ 起震車体験（分遣所職員による指導）</p> <p>⑤ 濃煙訓練（分遣所職員による）</p> <p>市の担当者や消防署との入念な打ち合わせの下で大々的に行われている。炊き出しの訓練や濃煙訓練など様々な訓練ができた。</p> <p><b>2 合同避難訓練（行事1時間）</b>          開催時期：9月14日（木）          参加者：保育園児、小学生、保育園職員、小学校職員          地震発生後、津波の恐れがあるとの想定で実施した。安全教育担当職員が、大きな地震の後は津波が発生する恐れがあることを東日本大震災の例を基に指導した。児童と園児はみんな真剣な表情で訓練を行った。</p> <p><b>3 『新潟県防災教育プログラム』の活用 年間6回</b>          『新潟県防災教育推進プログラム』を学校安全計画に位置付け、学年ごとに各教科や行事、活動等と関連させ、活用・指導した。避難訓練での態度が回を重ねるごとに真剣さを増し、長い話も聞けるようになった。非常食体験では、缶を開けることや非常食を食べるのが初めてという児童がほとんどだった。児童からは、「味はよいが、お腹いっぱいにならないのが分かった」との声が聞かれた。</p>
成果と今後の課題	<p>1 学校単位ではここまで充実した訓練を行うことはできないと考えられるため、来年度からは地域と学校で合同の避難訓練を実施することにする。児童は登校日として、全員にそれぞれの訓練を体験させたい。子供が参加することで、子供の親世代の参加数増加にも期待がもてる。</p> <p>2 保育所の園児が訓練を毎年小学校で行うことで、小学校の校舎や学校での話の聞き方などを知るという効果にも期待がもてる。実際に大惨事があった場合には、それぞれの職員が自校園の子供の安全</p>

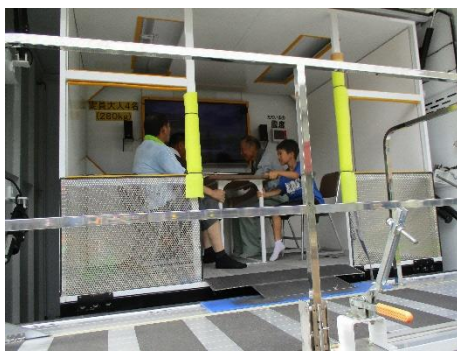
管理をするよりも、避難所に指定されている小学校で大勢の職員で対応することが賢明であると思われる。兄弟姉妹も多いため、保護者の子供の受け渡しにも好都合である。内容については、園児に無理のないようにしながら継続していきたい。

3 命の大切さについてその都度指導することで、防災教育の重要性について捉えることができるようになった児童が多く、学習への意欲が高まってきた。防災プログラムの効果的な活用を今後も検討していきたい。

実践の様子

・ 7月22日（土）

高士地区防災訓練 起震車体験



・ 7月22日（土）

高士地区防災訓練 避難所設置



扇風機  
の活用

・ 9月14日（木）

高士保育園との合同避難訓練（校舎3階に二次避難）

扇風機  
の活用



・ 12月21日（木）

防災プログラムの活用後、全校で非常食体験



※ 実践した際の写真を2～3枚貼り付けて、簡単なキャプションを加えてください。（キャプションの文字サイズは任意）  
なお、写真はWebページ等での公開に支障のないものとし、提出の際には、データも別に添付してください。

※ 最終年度の実績報告提出時には、「自校プラン」を添付してください。